

American Pie YL : 4.5 ●総語数 : 11,000

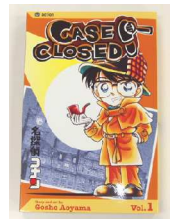
副題 ; Slice of Life Essays on America and Japan

NHK ラジオ英会話のテキストに連載されたアメリカ人女性講師のエッセイ。エッセイの主題は副題にあるとおり。20編全てが各4ページ程度からなっていて読みやすい。レベルは4.5と低くはないが、わかりにくいところはどンドンとばせるのがエッセイ集の利点。作者自身の読み上げCD付き。この中の1編は現在の高校教科書(Crown)にそのまま掲載されていますので、だいたい高校2、3年生の教科書レベルとお考えいただくとよろしいかも。



● Case Closed YL : 4.5 総語数 : 8,100

ご存知、名探偵コナンの英語マンガです。読みやすさレベル4.5となっていますが、人によって感じ方はいろいろだと思います。かなりたくさん冊数がでていますが、とりあえず1巻のみ仕入れました。ご希望があれば追加します。それにしてもこの“Manga”というジャンルはみんな大文字で書かれていて、私個人的には読みにくいなー。そのうち慣れるものなのだろうか？



アプリコットのCDつき絵本3冊 YL : 0.5

Tiny Boppers

Our Sweet Home

What's This?

これは日本の出版社、アプリコットが出している英語絵本でCDには英語だけでなく、歌や日本語の読みも収録されていて、なかなか内容の濃いCDです。



ミステリではじめる英語 100万語 酒井 邦秀・佐藤まりあ、共著

一度読み始めると、どうしても結末が早く知りたくなるミステリは多読には最適の素材といえます。英米の小学生や中高生に大人気のシリーズ、日常生活の表現がたっぷり学べるコース・ミステリ、そしてもちろんジョン・グリシャムやパトリシア・コーンウェルまで、8段階のレベル別にたくさんの洋書を紹介。



Magic Tree House シリーズ8冊 YL 3.5

マジックツリーハウスはSSSの中でも「離陸本」と言われ、これが読めるようになれば、あとは本物のペーパーバックまでは自力で辿り着けるようになる(かもしれない)目安になる本なのです。このシリーズは1巻から24巻まで、以前から蔵書にありましたが、今回、読み上げCDの付いている最初の8巻を買い足し、実籾、習志野台、両教室に置けるようにしました。このCDは作者自身が読み上げています。日本語訳も最初の2巻については購入してありますので、難しすぎた場合は邦訳も参考にしてみてください。



ちなみに先日、津田沼の丸善に行ったら、このマジックツリーハウスの邦訳版が、子供向けコーナーにずらっと横積みで並んでいて、「えっ?こんなに一般的な本なの?」と少々驚きでした。

●Frog and Toad シリーズ4冊とCDセット YL1.5

これは以前から蔵書にあったものですが、新たに読み上げCDを購入し、実習、習志野台両教室に置くようにもう1セット（4冊）追加購入しました。I Can Read Book シリーズの「がまくんとかえるくん」です。CDは作者のアーノルド・ローベル自身が吹き込んでいて、まるでプロのナレーターのように、とってもうまいですよ。長さは4冊分で約90分です。



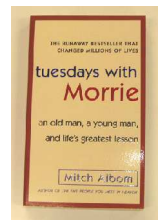
●Catch a Wave 多読会員の方、希望者にさしあげます。

Catch a Wave は英検 3 級・準 2 級レベルの英文で書かれたやさしい英字新聞。巻末に主要な単語の日本語の意味を載せてありますので、酒井先生ならお勧めしないと思いますが、語彙力を無理やりにでも増やしたい方にはお勧めです（こういう語彙の増やし方をSSSではドーピングと呼んでいる）。毎月末に届きます。希望者で先着15名の方に差し上げますので、受付、またはヘンミまでお申し出ください。読み上げCDあり。8月は休刊。



Tuesdays with Morrie YL : 6.5 総語数 : 34,000

ノン・フィクション。新聞社に勤めるスポーツ・ライターの著者は、偶然目にした人気番組“Nightline”で、大学時代の恩師 Morrie Schwartz が難病（ALS）に冒され余命幾ばくもないことを知る。著者と恩師 Morrie の最後の「授業」が始まる。副題: An Old Man, a Young Man, and Life's Greatest Lesson. Morrie の没後、最後の「授業」を受けた著者の生活に劇的な変化が起きたとは思わない。しかし、何か大切なものがつけ加わり、少しだけ人生が深くなったと思う。



●上記「ミステリではじめる100万語」を書かれた佐藤まりあさんが、メルマガで音源の利用について、なかなか良いことを言っていたので転載します。-----以下転載

音源といえば、まずリスニング力を鍛えるためのもの、と考えるのが常識的なのですが、読みを深めるために利用している方もいらっしゃいます。「聞き読み」つまり listening reading、略して「LR」なんて呼んでいます。CDやテープを聞きながら読んでいく方法。こうすることで、どう発音して良いか分からない人名や地名なども読み方がわかりますし、知らない単語があっても、音を聞くことで場面の様子がわかりやすくなり、知らない単語の意味が想像できたりすることも増えます。どんどん進む朗読に引っ張られて否応なしに読速があがり、すらすら読む、ということがどんなものか体験できます。ただし、人によっては音を聞いているといつのまにか字を追えなくなる、あるいは字に集中してしまって、どこが読まれているのか分からなくなった、など、読むか聞くか、どちらか一方にしないと快適でない方もいらっしゃいます。多読に無理と我慢は禁物、試してみてください楽しめなければやめましょう。

「よくわからないものに頑張って挑戦する」ことで英語力が向上するということが常識になっているようですが、これは迷信です。すらすら読めるもの、よく聞き取れるものをたくさん読み聞くことが能率よく力をつけるのです。よくわからないものと格闘していると、時間がかかります。つまり英語にふれる総量が減ってしまいます。嫌になって止めてしまう危険もあります。大部分はわかるけれど、ほんの少しわからないところがあるものが教材として適切です。知らない単語やわからない部分がたくさんあると、何がわからなかったかの記憶が残りません。知らない単語がほんの少しの本を読んでいると、わからなかった単語がはっきりします。これが記憶に残って、何度か出会ううちに「そういうことか！」とひらめくのです。よくわかるものを読むのは楽しいから、いつまでも続けられ、知らず知らずに英語力が向上していきますよ。

-----以上。近日中にまた書籍追加予定です。お楽しみに。ヘンミ